

第 53 回 年次大会報告

長 井 智 典

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第 53 回年次大会が 2018 年 7 月 4 日(水)ホテル札幌ガーデンパレスで開催されました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。ここでは会議の概要と講演会、懇親会の様子を中心に報告します。

2. 年次大会(15:30～16:30)

今回は定期報告を中心とした 5 つの事項が報告されました。

(1)出席状況

- ・会員 170 名
- ・会友 36 名
- 合計 206 名



写真-1 右より森本部長、大熊・池田・高桑副本部長

(2)開会挨拶

はじめに森本部長から、北海道命名 150 年を PR すべく、コンサルタンツ北海道 145 号表紙にロゴマークを入れた旨、お知らせがありました。



写真-2 森本部長挨拶

続いて、技術士制度改革の検討状況(文部科学省科学技術・学術審議会技術士分科会制度検討特別委員会、与党技術士議員連盟、日本技術士会技術士制度検討委員会)についてお話があり、近い将来に向け CPD の実施と記録の習慣づけが重要と結ばれました。

(3)報告事項と質疑応答

①第 1 号報告(平成 29 年度事業・決算報告)

羽二生事務局長より、平成 29 年度の事業及び決

算報告が行われ、今井会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。これに対する会場からの質問・意見等はありませんでした。

②第 2 号報告(平成 30 年度事業計画・予算説明)

前号に続いて、平成 30 年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年度の予算について、一般会計では、統括本部からの補助費(地域組織活動費、地域組織活動補助費)が増額となりますが、産学官合同セミナー及び北東 3 地域本部交流研修の開催による北海道本部持ち出し費用があることから、約 56 万円の赤字予算となりました。各委員会へは、引き続きの経費抑制と行事参加費収入の上積み工夫にたくやうお願いしています。特別会計(試験業務)では、技術者のミライ研究委員会による技術士試験制度の普及・啓発活動実績を踏まえ、昨年度より若干増額した約 270 万円の予算となります(詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います)。

③第 3 号報告(委員会等役員について)

平成 30 年度の北海道本部の委員会委員長、幹事長、代表について森本部長より紹介がありました。今年度、北方海域技術研究委員会の代表が、若林氏から寺島氏に交代されました。

④第 4 号報告(平成 30 年度新名誉会員)

名誉会員推薦規則第 4 条に基づく北海道本部からの推挙者について、事務局より報告・紹介がありました。北海道本部からは、大島特別顧問を推挙し、平成 30 年度第 1 回理事会において承認されました。大島特別顧問は、平成 7 年度～平成 10 年度まで北海道技術士センター副会長、平成 11 年度～平成 14 年度まで北海道支部副支部長、平成 13 年

度～16年度まで統括本部理事、平成15年度～平成20年度まで北海道支部長を務められ、現在は当本部の特別顧問になられています。

⑤第5号報告(日本技術士会会長表彰者)

表彰規則第5条に基づく会長表彰の受賞者について、事務局より報告・紹介がありました。北海道本部からは、大塚夏彦氏、椛澤勝則氏、日下部祐基氏、斎藤和夫氏の計4名が受賞されました。

新名誉会員及び会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

(4)閉会

報告事項5件に対する質問・意見等も無く、森本部長の閉会宣言により年次大会は滞りなく終了しました。

3. 講演会(16:30～17:30)

今回はNPO法人日本水フォーラム代表理事兼事務局長の竹村公太郎氏をお迎えし、「地形と気象から見る日本文明—北海道の未来—」と題してご講演いただきました。

(1)講師のご経歴

竹村様は、1968年東北大学工学部土木工学科を卒業・1970年修士修了後、建設省に入省されました。



写真-3 竹村公太郎氏

宮ヶ瀬ダム工事事務所、中部地方建設局河川部長、河川局開発課長、近畿地方建設局長を経て国土交通省河川局長を歴任され、2002年の退官後、リバーフロント研究所代表理事などを経て、2014年より現職に就かれています。

また、多くの著書をご執筆されており、主な著書として、「日本文明の謎を解く」(清流出版2003年)、「土地の文明」「幸運な文明」(PHP研究所2007年)、「水力発電が日本を救う」(東洋経済新報社)などがございます。

(2)講演について

ご講演は、神武天皇が大和盆地を選んだ理由から始まり、桓武天皇が長岡京へ行った理由、徳川家康が箱根を越え武蔵野台地を選んだ理由について、私見を交えながら地形から見る都市発展の条件をお話になり、その後の近代化日本が辿った鉄道敷設(東

京集中)と北海道の違い(石狩川流域沿線)、石狩川の河川改修ではない「国土づくり」についてご



写真-4 講演会会場の様子

説明されました。そして、100年後の平均気温の上昇予測から、北海道が大穀倉地帯となること、近代化を振り返りポスト近代には多様性、分散型、スローな、自然の恵みを利用した国土づくりが必要なことなどをお話され、エネルギー自給率が6%(日本)の文明は必ず滅ぶことから、自由の大地・北海道に期待したいと結ばれました。

4. 懇親会(17:45～19:30)

講演会終了後、会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会は会員他129名の出席によりほぼ満席での催しとなりました。



写真-5 懇親会司会 飯野事務局次長

飯野事務局次長の進行により、大熊副本部長の開会挨拶、池田副本部長の乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。開宴後は、ご講演いただいた竹村様からのご挨拶、新名誉会員となられた大島特別顧問からのご挨拶、会長表彰受賞者である椛澤技術士・斎藤技術士からのご挨拶、地方技術士委員会からのご挨拶がありました。その後、昨年引き続き技術士ビンゴゲーム大会を行い、高桑副本部長の万歳三唱により閉会しました。

5. おわりに

今年度の年次大会も昨年並みの参加があり、盛況のうちに終えることができました。お忙しい中、快くご講演をお引き受けいただいた竹村様並びに参加者の皆様に心からお礼申し上げます。

長井智典(ながい ともり)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

